

## 第2章 大泉町の現状と課題

### 1 大泉町の概況

本町は、群馬県の東南に位置し、東は邑楽町、千代田町、西から北にかけて太田市、南は利根川を挟んで埼玉県熊谷市に隣接しています。地形は平坦で、面積は 18.03Km<sup>2</sup> となっています。また、気候は年間通じて晴天の日が多く、冬季には北関東特有の空っ風が吹きますが、天災が少なく住みやすい地域です。

昭和 30 年代から工場誘致や市街地整備を進めてきており、北関東屈指の製造品出荷額等を誇る「ものづくりのまち」としての一面を持っています。また、これらの産業の担い手として外国人住民が多く住んでおり、独自の文化が営まれています。

#### ■大泉町の概況



① 位置：

東経 139°24'18"  
北緯 36°14'52"

② 面積：18.03Km<sup>2</sup>

③ 標高：34m

④ 広ぼう：

東西 4.9Km  
南北 6.3Km

⑤人口：41,624 人

⑥人口構成：

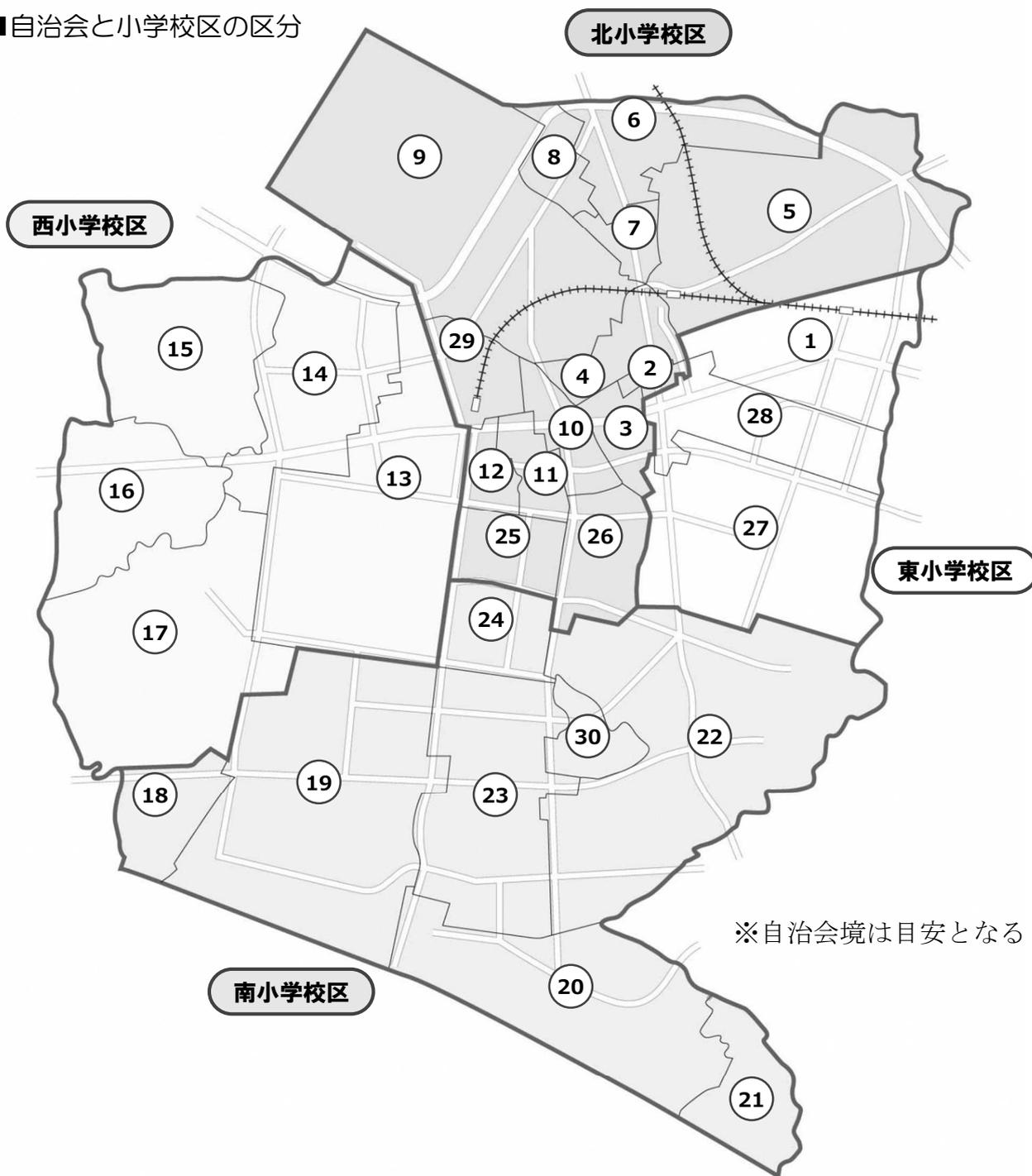
15 歳未満 12.3%  
15～64 歳 64.4%  
65～74 歳 12.1%  
75 歳以上 11.2%

⑦外国人住民比率：18.8%

※⑤～⑦は令和 4 年 3 月 31 日現在

本町は30の自治会に分かれており、各自治会で地域活動が展開されています。また、本町の小学校区は、この自治会を基本として4つに分かれています。

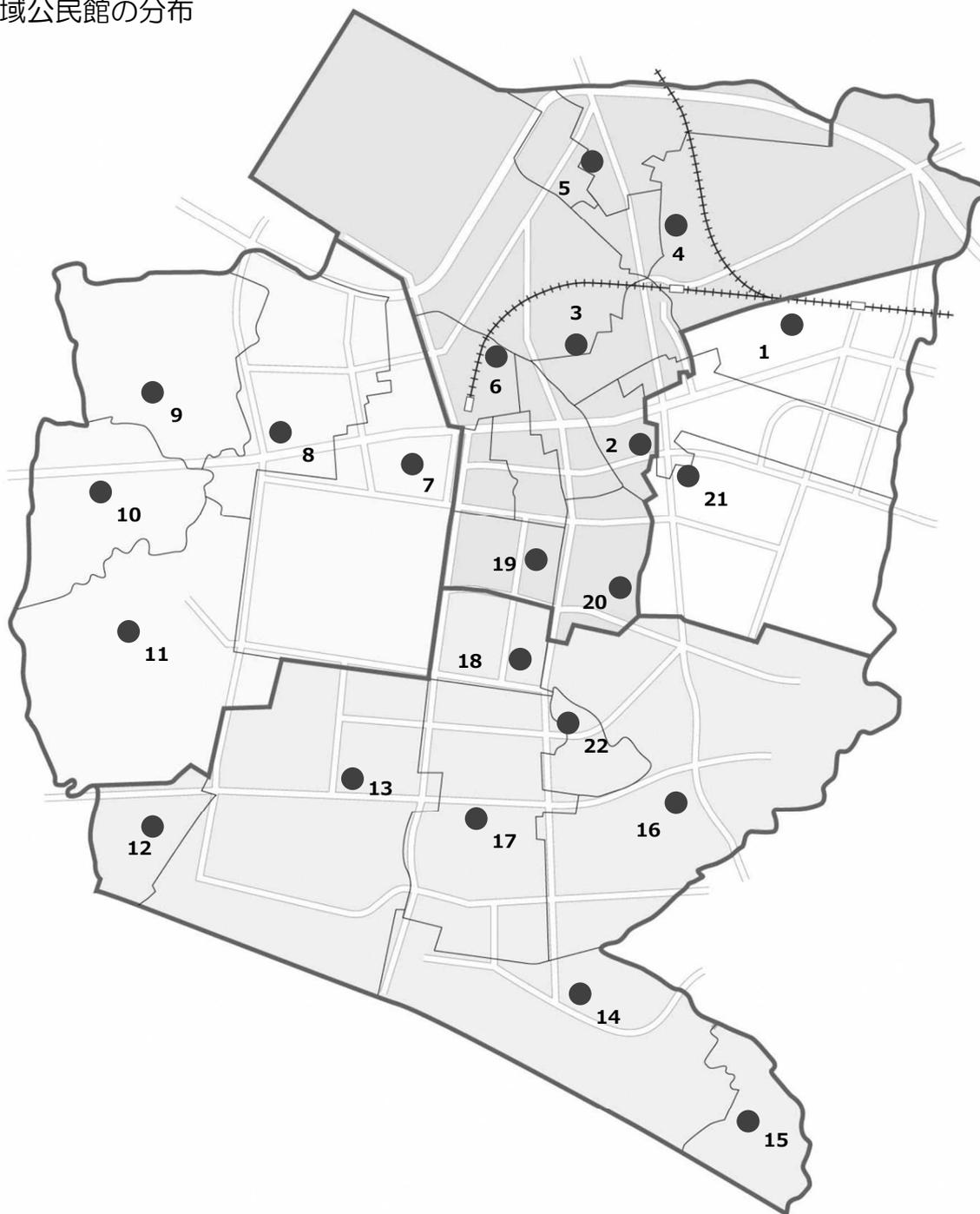
■自治会と小学校区の区分



NO	自治会名	NO	自治会名	NO	自治会名	NO	自治会名	NO	自治会名	NO	自治会名
1	東部	6	第6区	11	東松原	16	第16区	21	第21区	26	第二十六区 富士之越
2	第2区	7	第7区 えのき	12	第12区	17	第17区 寄木戸南	22	第22区	27	南部南
3	第三区	8	第8区	13	第13区	18	丘山町	23	第23区	28	第28区
4	第4区	9	第9区	14	14区	19	第19区	24	日の出町	29	西志部
5	大泉町 第5区	10	第10区 東志部	15	古氷	20	古海西	25	住吉町	30	第30区 三吉町

本町は町内には 22 箇所の地域公民館があります。地域公民館では、地域住民が主体となって、自主的な活動や生涯学習に取り組んでいます。

■地域公民館の分布

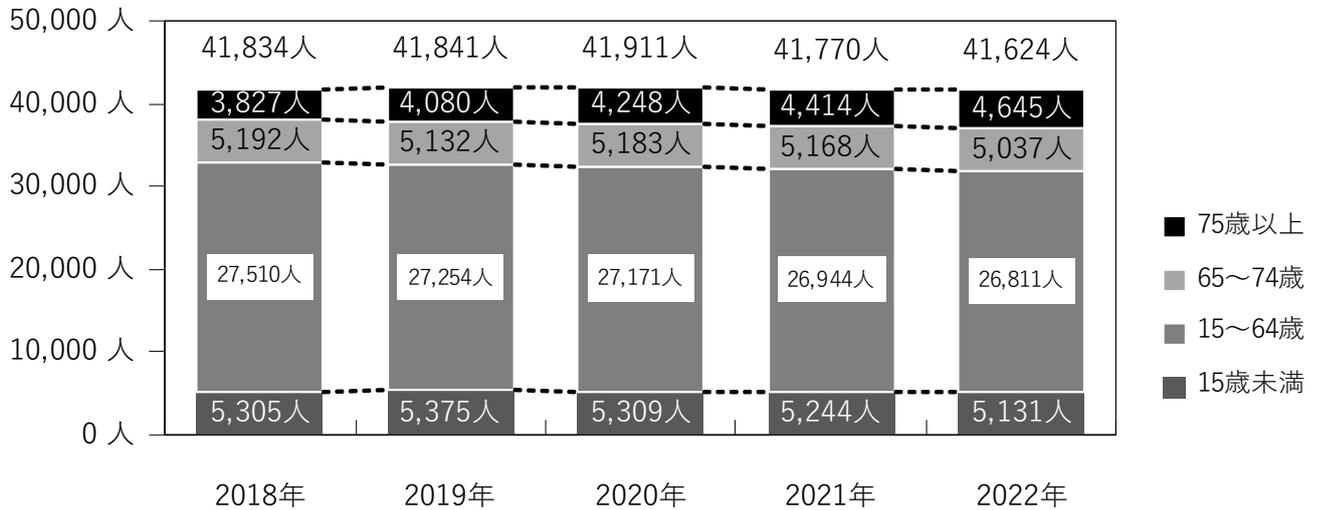


NO	公民館名	該当区	NO	公民館名	該当区	NO	公民館名	該当区	NO	公民館名	該当区
1	東部	1	7	坂田東	13	13	仙石	19	19	住吉町	25
2	中部	2・3	8	坂田西	14	14	古海西	20	20	富士之越	26
3	城部	4・9	9	古水	15	15	古海東	21	21	南部	27・28
4	第五区	5	10	寄木戸北	16	16	吉田東	22	22	三吉町	30
5	北部	6・7・8	11	寄木戸南	17	17	吉田西	23			
6	西部	10・11・12・29	12	丘山町	18	18	日の出町	24			

## 2 人口や世帯の状況

### (1)人口の推移

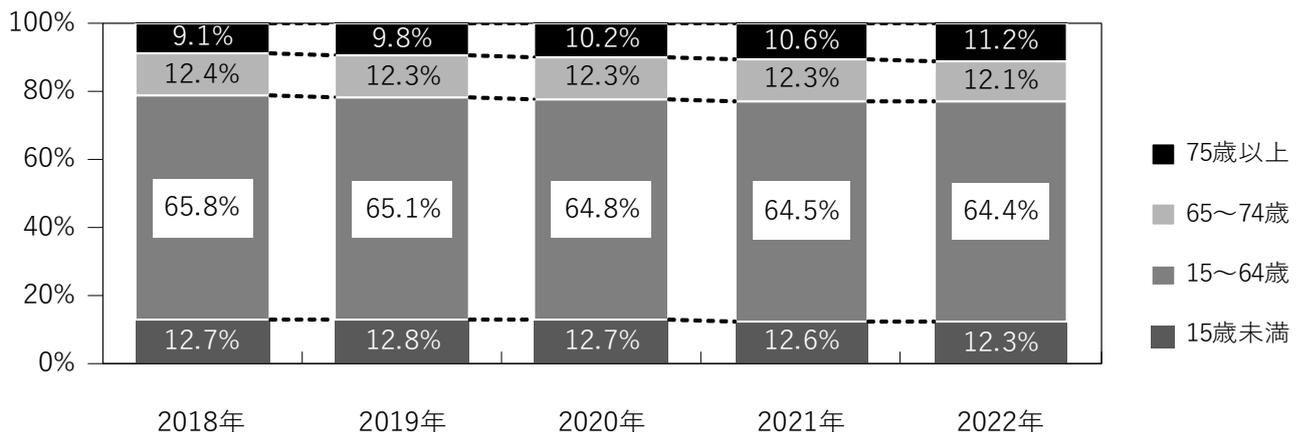
#### ■人口の推移



資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）

本町の人口は、2018（平成30）年から2020（令和2）年までは増加、2021（令和3）年から微減しており、2022（令和4）年には41,624人となっています。

#### ■年齢4区分の人口割合の推移

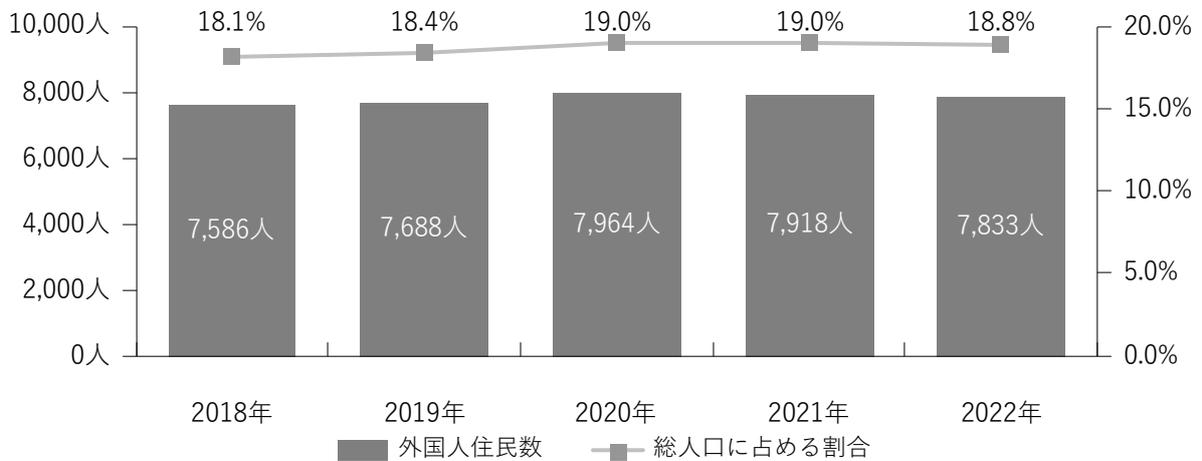


資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）

人口割合では、15歳未満の割合（年少人口）はほぼ横ばいの中、15～64歳の割合（生産年齢人口）は減少しているのに対して、65～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）を合わせた割合は増加しているため、高齢化が進んでいることがわかります。

## (2)外国人住民の推移

### ■外国人住民の推移

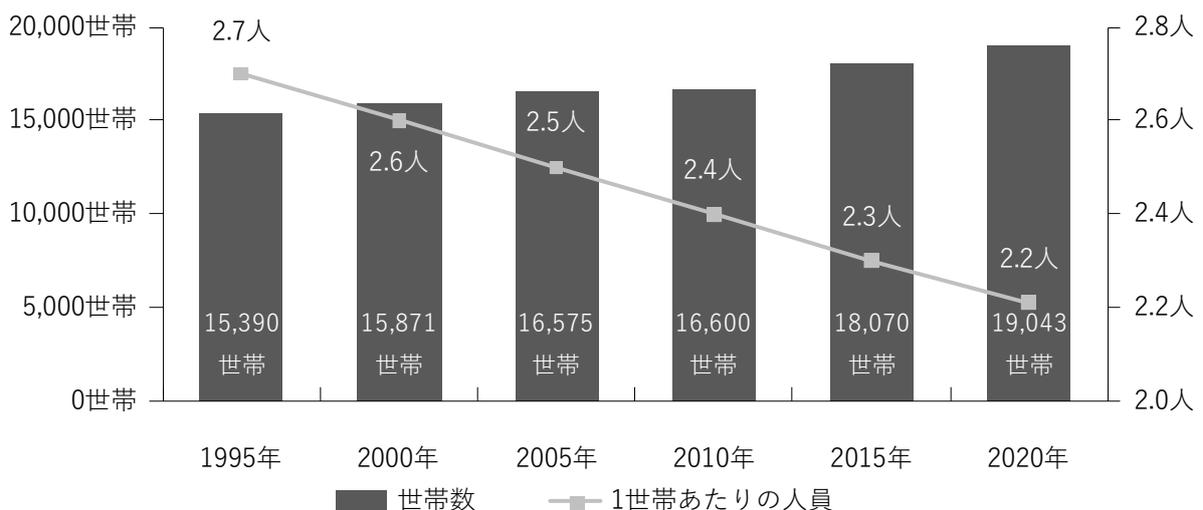


資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）

外国人住民は人口に増減はあるものの、総人口に占める割合は18%以上という高い水準で推移しています。

## (3)世帯数の推移

### ■世帯数の推移



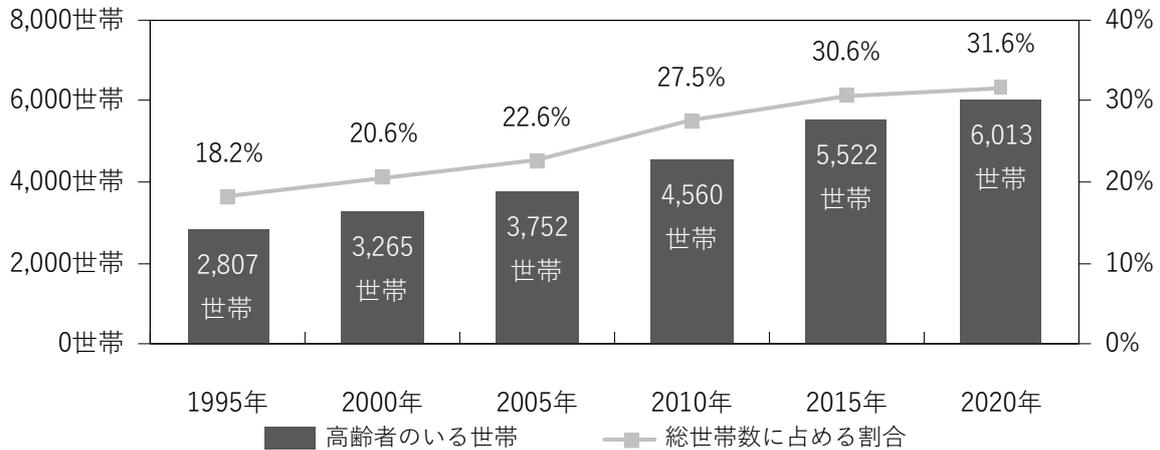
資料：国勢調査（各年10月1日現在）

世帯数は、増加していますが、1世帯あたりの人員は年々減少しており、2020（令和2）年は2.2人と世帯の少人数化が進んでいます。

### 3 支援を必要とする町民の状況

#### (1) 65歳以上の高齢者のいる世帯の推移

##### ■ 高齢者のいる世帯の推移

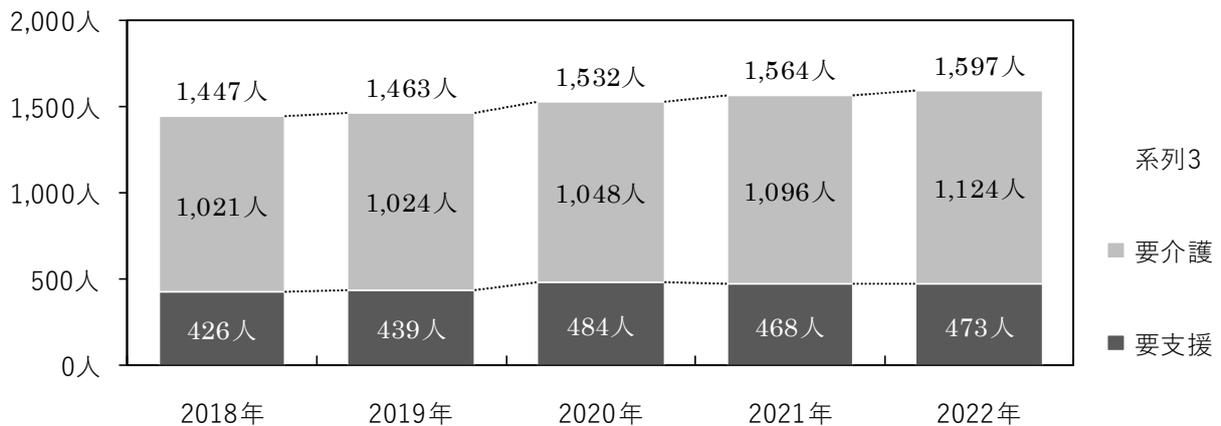


資料：国勢調査（各年10月1日現在）

高齢者のいる世帯数と総世帯数に占める割合ともに増加しています。特に2010（平成22）年から2020（令和2）年までの10年間で、高齢者のいる世帯は約1,500世帯増加しています。

#### (2) 要支援・要介護認定者の推移

##### ■ 要支援・要介護認定者の推移

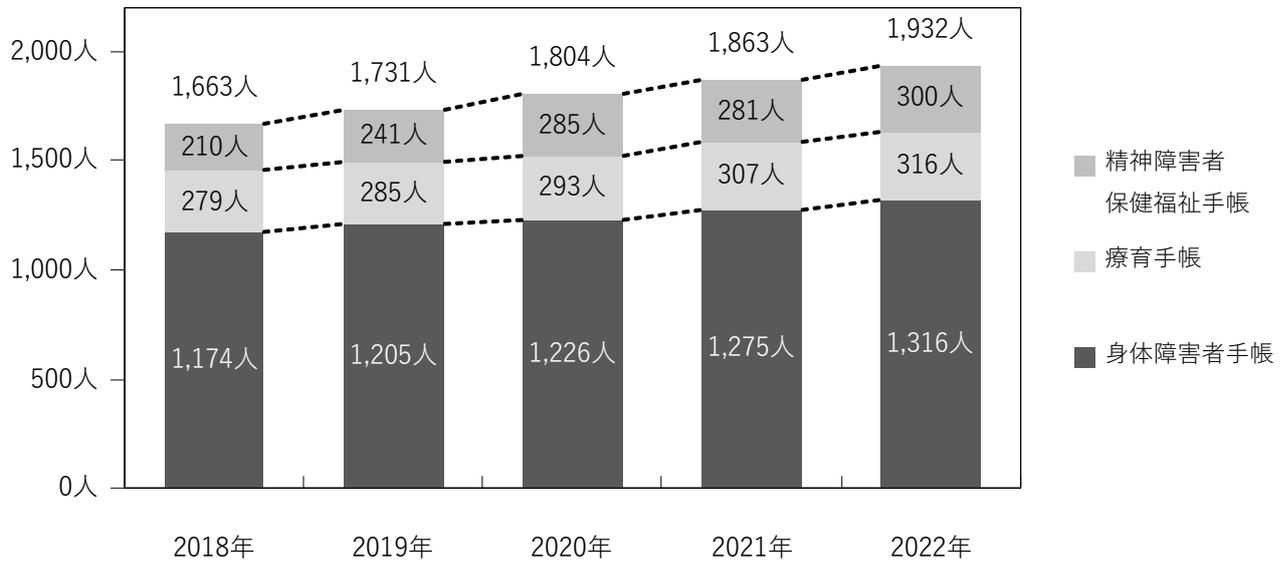


資料：高齢介護課（各年3月31日現在）

要支援と要介護を合わせた人の数は2018（平成30）年から年々増加しており、2022（令和4）年には1,597人となっています。

### (3) 障害者手帳所持者数の推移

#### ■ 障害者手帳所持者数の推移

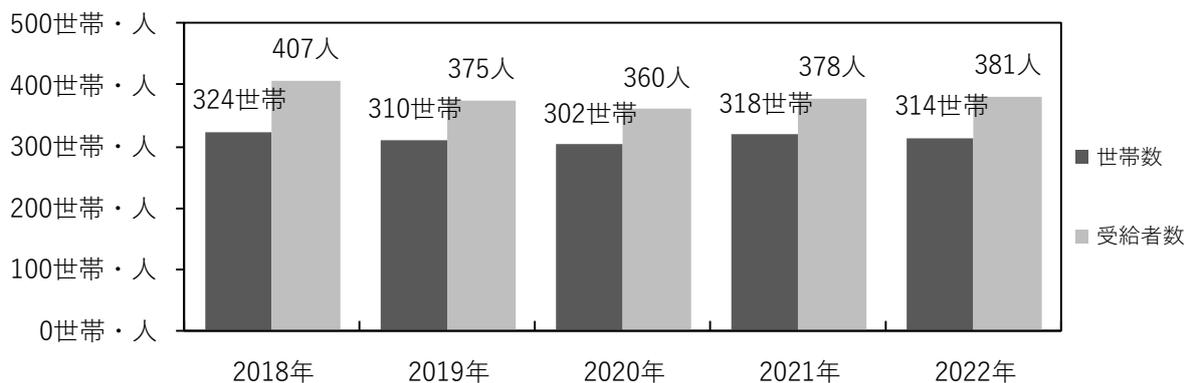


資料：福祉課（各年3月31日現在）

障害者手帳所持者数は年々増加しており、2022（令和4）年には1,932人となっています。

### (4) 生活保護受給世帯及び受給者数の推移

#### ■ 生活保護受給世帯及び受給者数の推移

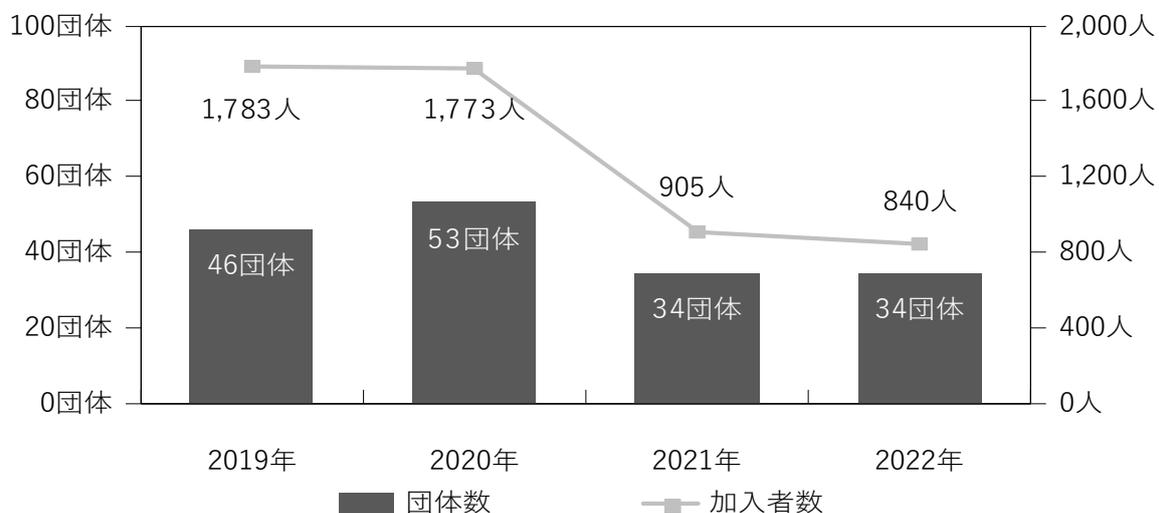


資料：福祉課（各年3月31日現在）

生活保護受給世帯数及び受給者数は2020（令和2）年までは減少していましたが、2021（令和3）年は微増しており、2022（令和4）年には314世帯、381人となっています。

## (5) ボランティア団体数、加入者数の推移

### ■ ボランティア団体数、加入者数の推移



資料：大泉町社会福祉協議会（各年3月31日現在）

ボランティア団体数、加入者数とも、2020（令和2）年から2021（令和3）年にかけて大きく減少しており、特に加入者数については、2022（令和4）年は2019（令和元）年の半数以下まで減少しています。

## 4 計画策定に係る町民アンケート調査結果

平成30年度から令和4年度を計画期間とする「第二次大泉町福祉地域計画・大泉町地域福祉活動計画」についての検証および「第三次大泉町地域福祉計画・大泉町地域福祉活動計画」の策定に向けた基礎資料の1つとすることを目的に実施しました。

### ■アンケート調査の実施状況

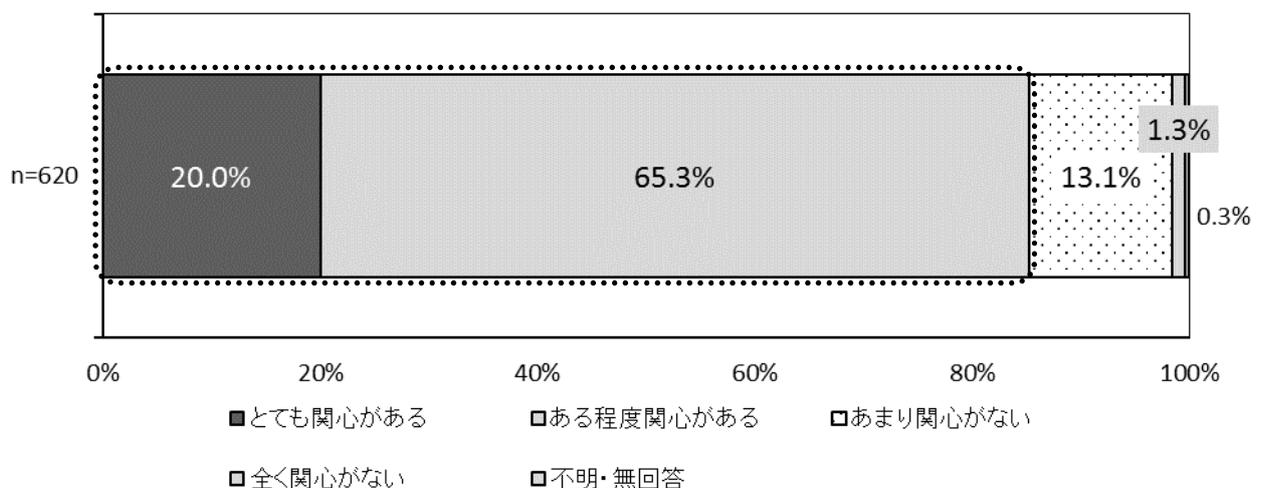
対象	町内在住の18歳以上の人から無作為に抽出した2,000人（施設入所者等は除く）
調査期間	令和3年11月1日（月）～11月22日（月）
調査方法	日本語、ポルトガル語、英語、やさしい日本語で作成した調査票を郵送し、調査票に同封した返信用封筒にて返信、または、上記の言語に対応するインターネット回答での調査。
有効発送数	1,949件
有効回答数	620件（郵送：466件 インターネット：154件）
有効回答率	31.8%

※グラフ中のn=〇〇という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。

※回答結果の割合（%）はサンプル数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものであるため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

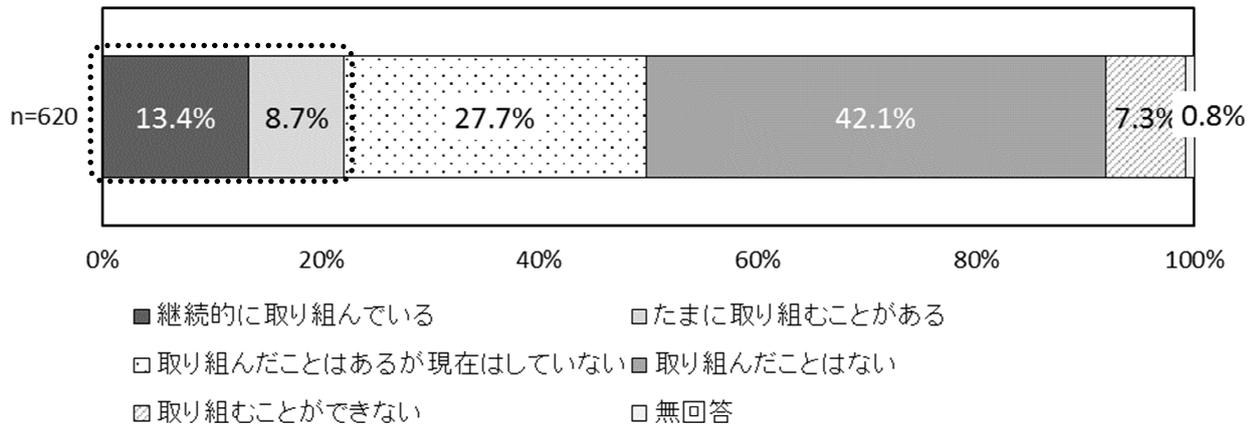
### (1) 地域福祉の意識について

#### ■あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。（ひとつだけ〇）



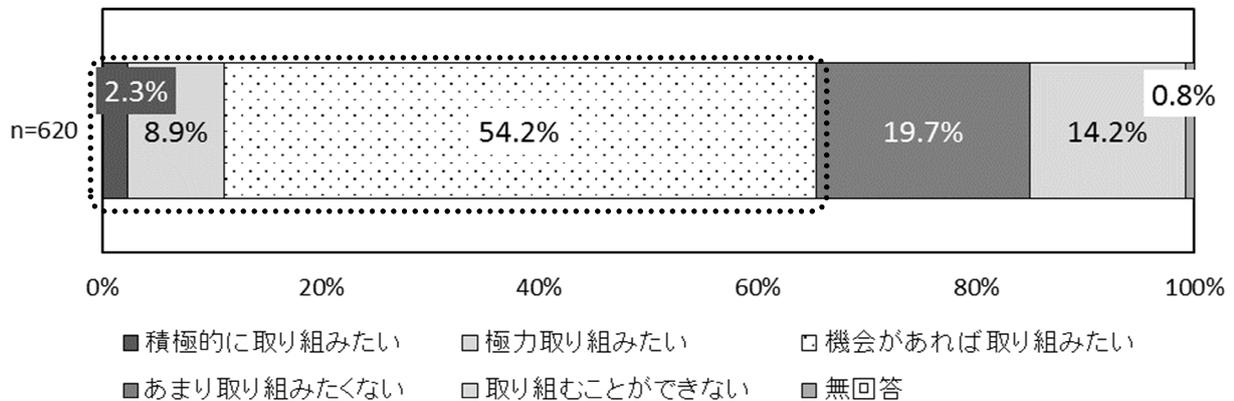
・「福祉」に「とても関心がある」及び「ある程度関心がある」と答えた人の割合は、前回計画策定時の調査より増加し、全体の85.3%を占めています。

■あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等について、取り組んでいますか。(ひとつだけ○)



・地域活動やボランティア活動への参加状況では、「現在、継続的に取り組んでいる」及び「たまに、取り組むことがある」と答えた人の割合は、前回調査時の23.6%より減少し22.1%となっています。

■あなたは、今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に、どの程度取り組んでいきたいと考えていますか。(ひとつだけ○)



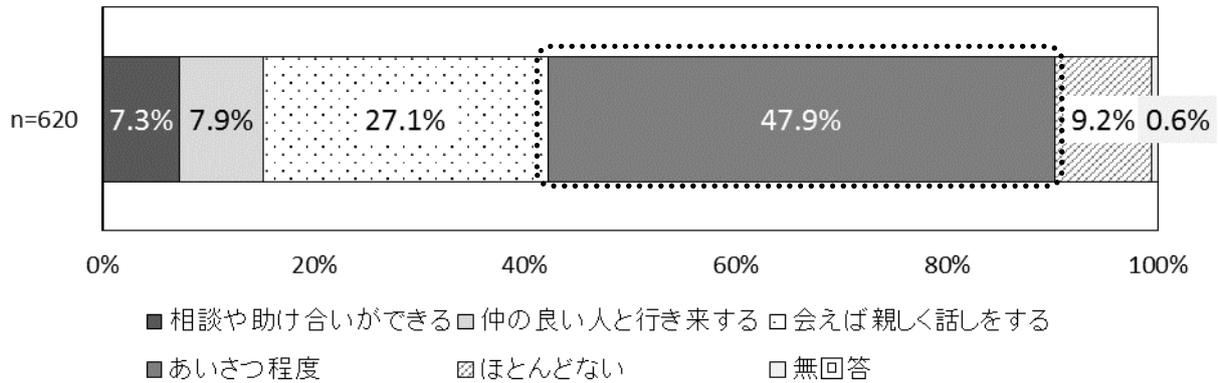
・今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等にどの程度取り組んでいきたいかでは、「積極的に、取り組んでいきたい」や「できるだけ取り組んでいきたい」、「機会があれば、取り組んでもよい」と答えた人の割合が前回調査時の58.1%を超えて65.4%となっています。一方で「あまり取り組みたくない」及び「取り組むことができない」と答えた人の割合は、前回調査時の34.7%より減少し33.9%となっています。

### **アンケート調査から見えてきたこと**

町民一人ひとりの地域福祉への関心は高いものの、地域活動やボランティア活動に参加をしている人は全体の22%と少ない状況です。ただし機会があれば取り組みたいと考えている人の割合が高いことから、今後も引き続き、地域福祉への意識の醸成や地域福祉ボランティア活動へ取り組む機会の創出を推進していくことが重要です。

## (2)地域との関わりについて

■あなたは、ふだん近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。(ひとつだけ○)

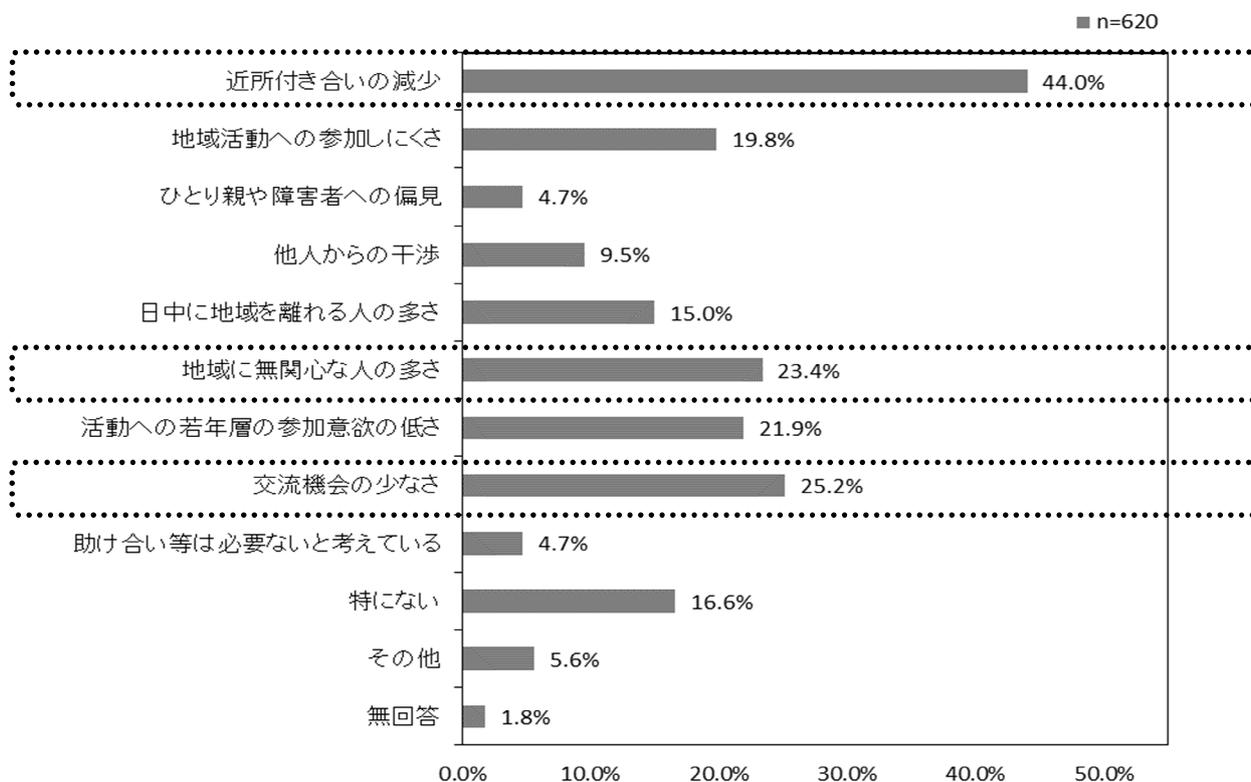


### □年代別集計

単位:%	い 合いができるような付き合 困っているとき、相談や助け 合	近所の仲の良い人とよく行 き来している	会えば親しく話をする人が いる	あいさつ程度がほとんど	近所付き合いはほとんどして いない	不明・無回答
10代(n=12)	—	—	16.7	66.7	16.7	—
20代(n=52)	1.9	1.9	9.6	51.9	34.6	—
30代(n=60)	3.3	0.0	18.3	66.7	11.7	—
40代(n=97)	4.1	4.1	16.5	64.9	10.3	—
50代(n=106)	9.4	0.9	26.4	54.7	8.5	—
60代(n=139)	6.5	9.4	36.7	38.8	6.5	2.2
70代以上(n=151)	12.6	19.9	36.4	29.1	1.3	0.7

- ・近所付き合いの程度については、「あいさつ程度がほとんど」が全体で47.9%となっています。年代別で見ると、70歳以上では、「会えば親しく話をする人がいる」と答えた人の割合が最も高く、それ以外の世代では、「あいさつ程度がほとんど」と答えた人の割合が最も高くなっています。

■現在、あなたの住んでいる地域の中での問題点・不足していると思うものはなんですか。（あてはあるものすべてに○）

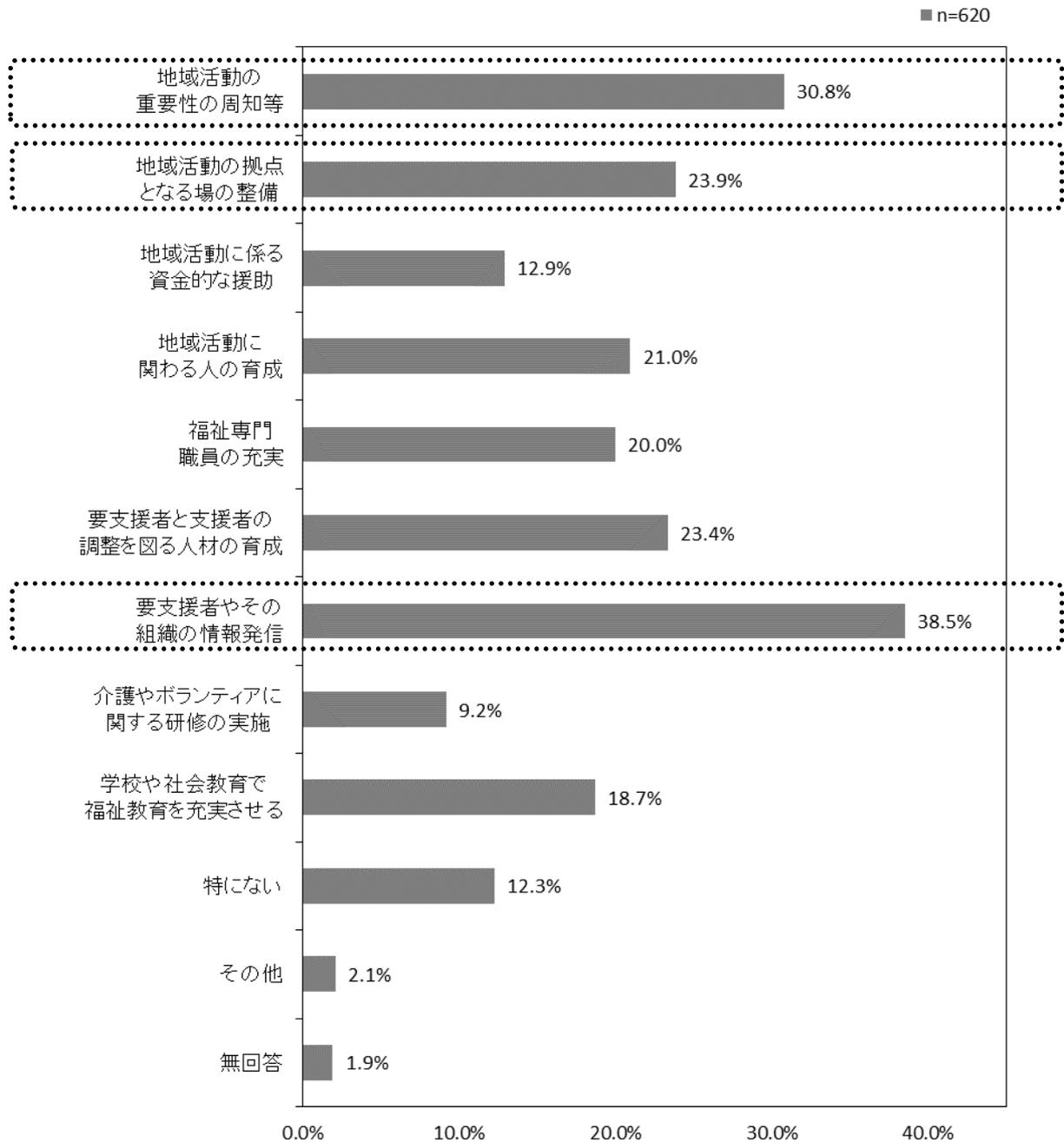


□年代別集計

単位：%	近所付き合いが減っていること	町内会・自治会の活動に参加しにくい雰囲気があること	ひとり親家庭、障害者がいる家庭などへの偏見があること	他人に干渉されプライバシーが守られないこと	日中、地域を離れている人が多いこと	地域に関心のない人が多いこと	地域活動への若い人の参加が少ないこと	地域での交流機会が少ないこと	助け合い、支え合いは必要ないと思うこと	特にない	その他	不明・無回答
10代(n=12)	25.0	16.7	16.7	16.7	25.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	—	—
20代(n=52)	40.4	30.8	3.8	9.6	13.5	19.2	23.1	21.2	5.8	21.2	1.9	—
30代(n=60)	30.0	30.0	3.3	10.0	20.0	21.7	13.3	33.3	8.3	21.7	10.0	—
40代(n=97)	34.0	25.8	8.2	17.5	18.6	23.7	18.6	21.6	8.2	12.4	5.2	1.0
50代(n=106)	37.7	17.9	2.8	10.4	17.0	23.6	18.9	25.5	2.8	17.0	6.6	2.8
60代(n=139)	48.2	12.9	4.3	7.2	13.7	18.7	21.6	21.6	3.6	19.4	5.8	2.9
70代以上(n=151)	59.6	15.9	4.0	5.3	10.6	30.5	29.1	29.1	2.0	12.6	5.3	2.0

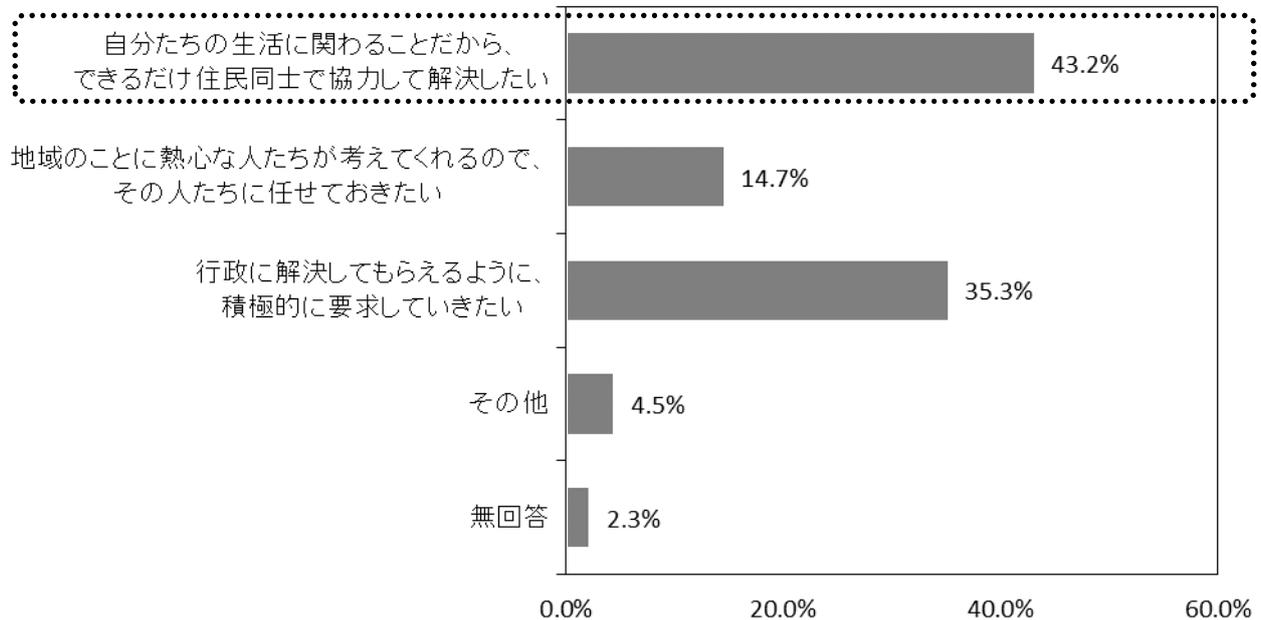
- ・現在、住んでいる地域の中で問題点・不足していると思うものについては、「近所付き合いが減っていること」、「地域活動での交流機会が少ないこと」、「地域に関心のない人が多いこと」が上位に挙がっています。なかでも、10代では「地域活動への若い人の参加が少ないこと」と答えた人の割合が最も高くなっています。

■地域における助けあい、支えあい活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで〇）



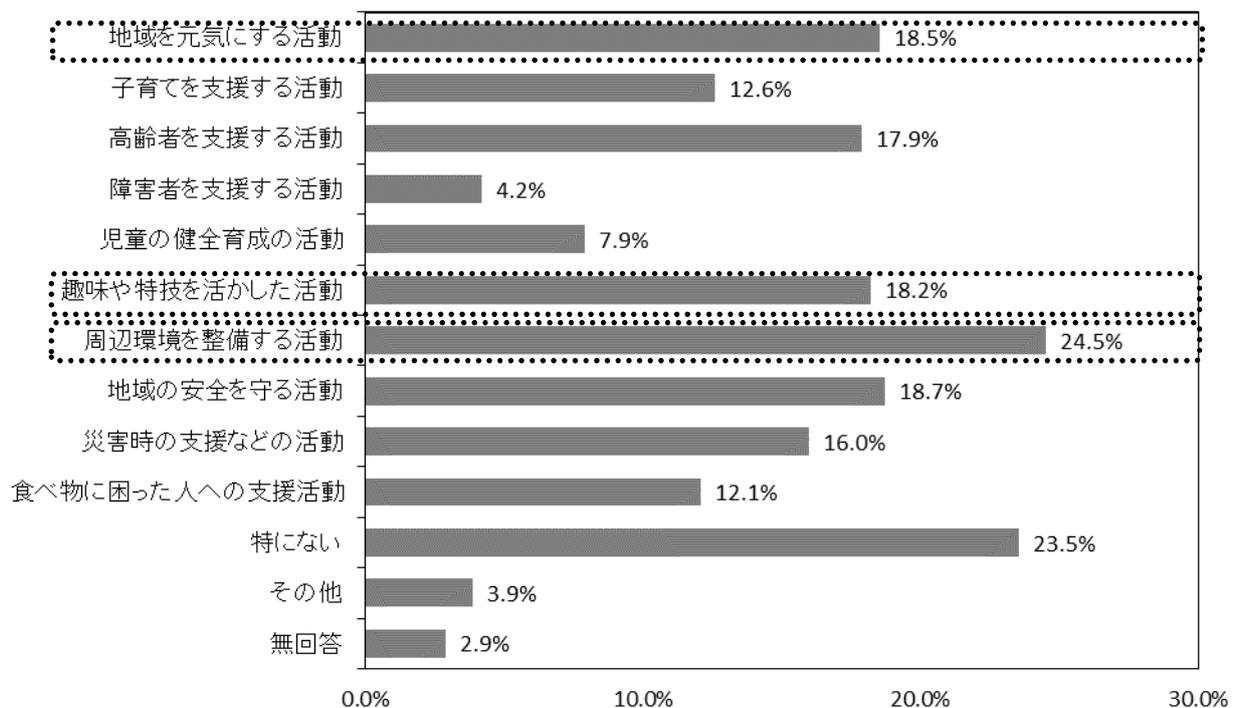
- 地域における助けあい、支えあい活動を活発にするために重要なことについては、「要支援者やその組織の情報発信」、「地域活動の重要性の周知等」、「地域活動の拠点となる場の整備」が上位に挙がっています。

■日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。（ひとつだけ○）



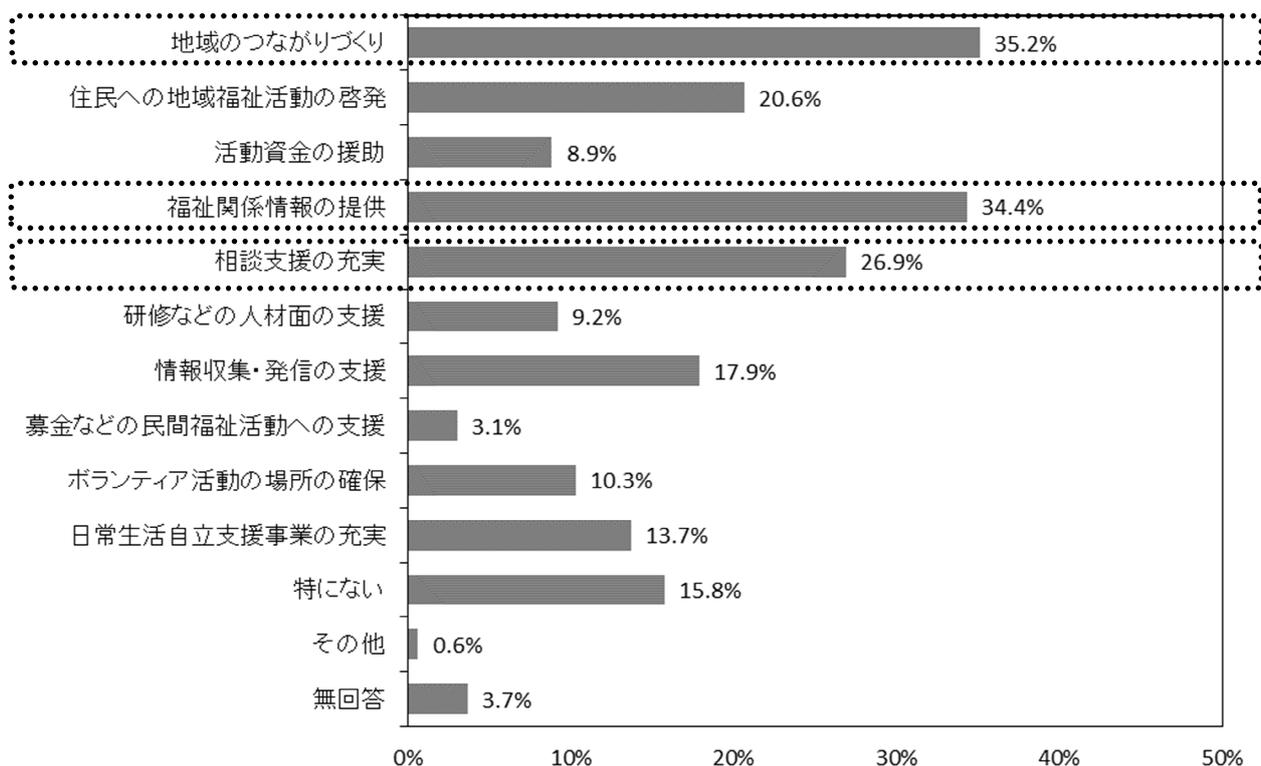
- ・日常生活の中で起こる問題に対して、解決する方法については、「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」が43.2%となっています。

■あなたが今後してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等は何ですか。（3つまで○）



- ・今後してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動では、「周辺環境を整備する活動」、「地域を元気にする活動」、「趣味や特技を活かした活動」が上位に挙がっています。その反面、「特にない」が全体の23.5%を占めています。

■社会福祉協議会に期待することはどんなことですか。(3つまで〇)



□年代別集計

単位:%	地域のつながりづくり	住民への地域福祉活動の啓発	活動資金の援助	福祉関係情報の提供	相談体制の充実	研修制度など、人材面の支援	情報収集・発信の支援	赤い羽根共同募金活動の実施による民間福祉活動への支援	ボランティア活動の場所の確保	日常生活自立支援事業の充実	特にない	その他	不明・無回答
10代(n=12)	33.3	16.7	8.3	25.0	0.0	0.0	16.7	0.0	25.0	25.0	41.7	0.0	0.0
20代(n=52)	28.8	9.6	19.2	17.3	21.2	7.7	28.8	3.8	13.5	13.5	21.2	0.0	1.9
30代(n=60)	31.7	6.7	15.0	20.0	33.3	5.0	20.0	3.3	11.7	6.7	25.0	0.0	1.7
40代(n=97)	27.8	17.5	7.2	40.2	27.8	11.3	23.7	2.1	15.5	12.4	15.5	1.0	2.1
50代(n=106)	34.9	20.8	8.5	38.7	36.8	6.6	15.1	1.9	9.4	16.0	10.4	0.0	0.9
60代(n=139)	35.3	25.2	7.2	38.8	23.7	15.8	16.5	2.9	7.9	17.3	13.7	1.4	3.6
70代以上(n=151)	43.7	27.8	6.0	36.4	24.5	6.6	13.2	4.6	7.3	11.9	13.9	0.7	7.9

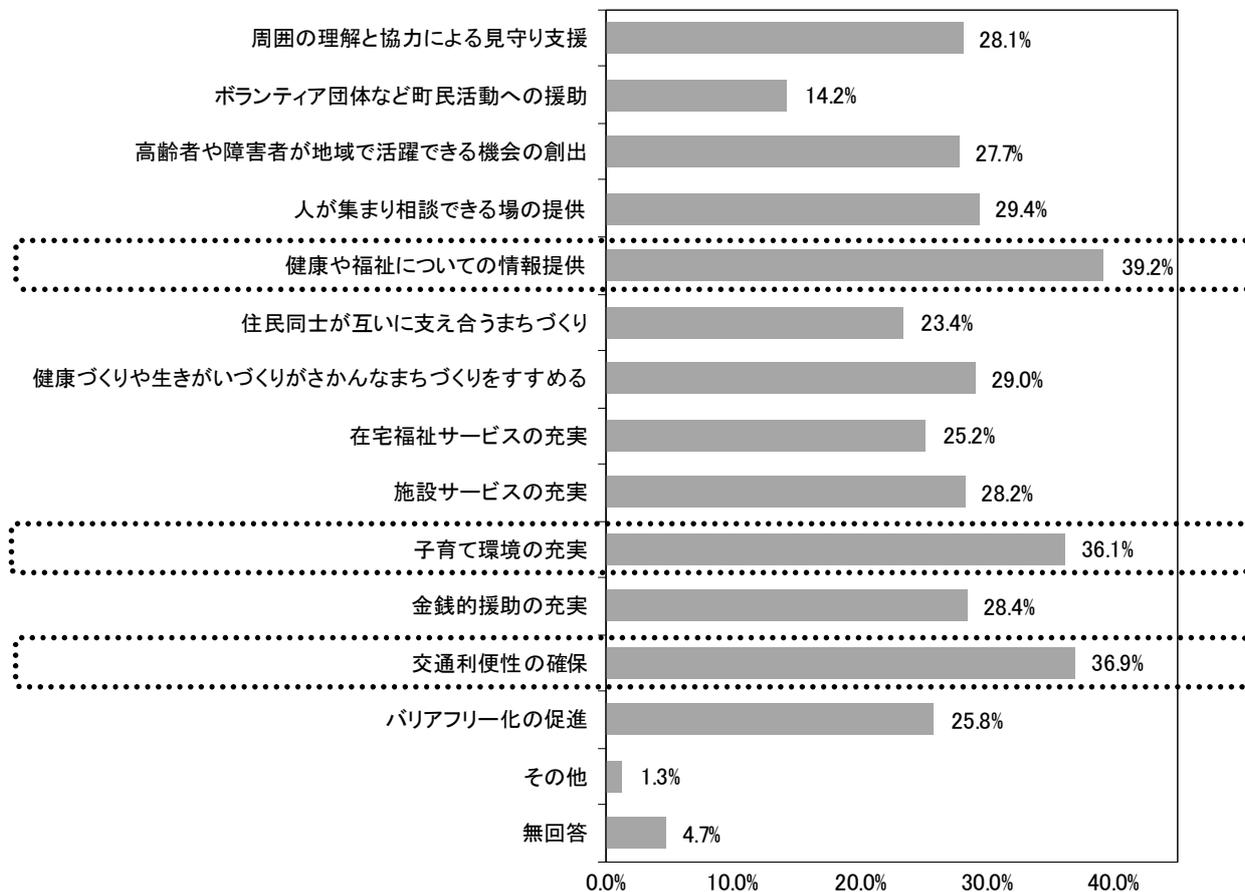
- ・社会福祉協議会に期待することでは、「地域のつながりづくり」、「福祉関係情報の提供」、「相談体制の充実」が上位に挙がっています。上位3つを年代別にみると、20代と70代以上では「地域のつながりづくり」、40代から60代まででは「福祉関係情報の提供」、30代では「相談体制の充実」と答えた人の割合が最も高い結果となっています。一方で、10代では約4割の人が「特にない」と答えています。

### **アンケート調査から見てきたこと**

新型コロナウイルス感染症の予防のための活動自粛の影響により、地域での活動の停滞が余儀なくされました。感染症対策を徹底しつつ必要な取り組みを継続していくための情報提供や支援について、今後の生活様式の変化を見据えながら検討していくことが求められています。

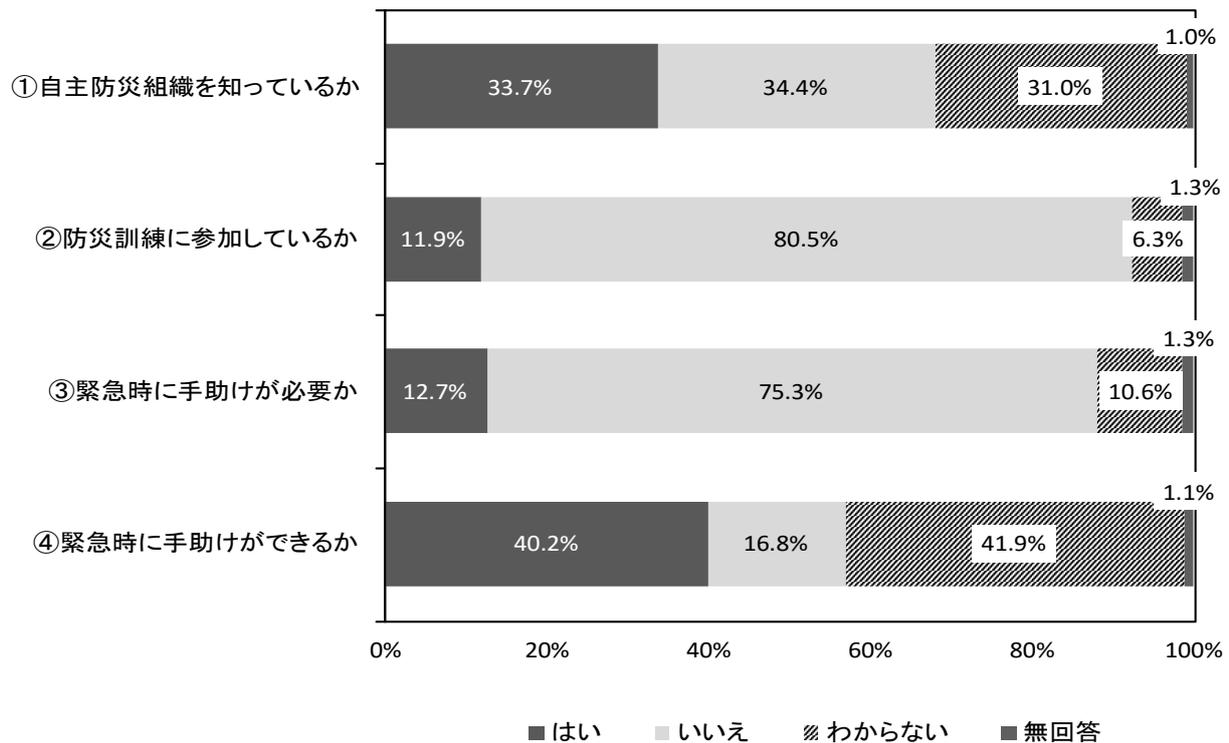
### (3)生活環境・福祉サービスについて

■大泉町の保健福祉施策をより充実していくために重要と考える取り組みはどれですか。  
 (あてはまるものすべてに○)



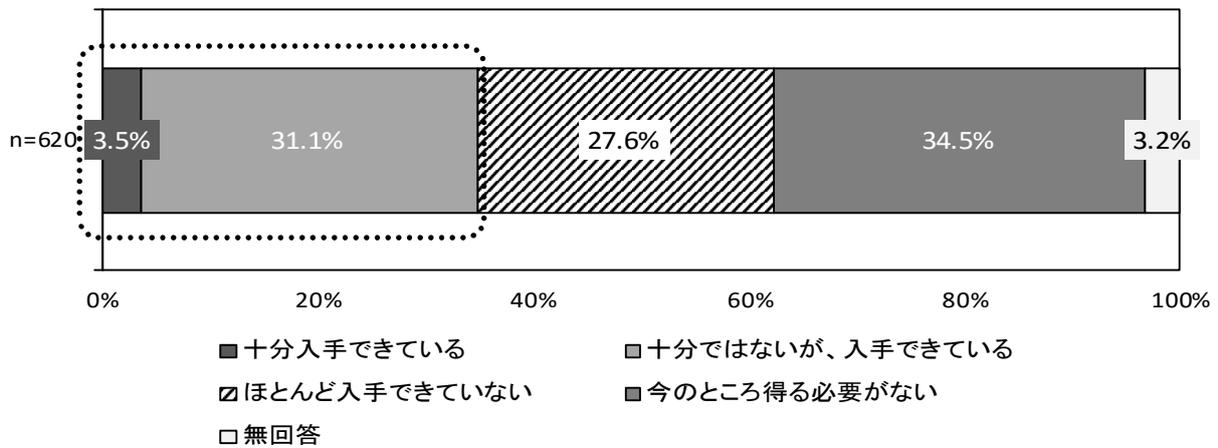
- 本町の保健福祉施策をより充実していくために、重要な取り組みとしては、「健康や福祉についての情報提供を充実させる」、「交通の利便性の確保をすすめる」、「安心して子どもを生み育てられる子育て環境を充実させる」が上位に挙がっています。

■あなたは防災に対する日ごろからの取り組みや、災害などの緊急時の対応についてどのようにお考えですか。（それぞれひとつだけ〇）



- 【①②】 現在、住んでいる地域に自主防災組織があるのを知っているかについては、「はい」と答えた人の割合が、33.7%となっており、また、日ごろから防災訓練に参加しているかについては、「いいえ」と答えた人の割合が80.5%となっています。
- 【③④】 災害などの緊急時に、避難所への誘導などの手助けが必要かについては、「はい」と答えた人の割合が12.7%となっており、一方で高齢者世帯や障害者などの要支援者の避難等の手助けができるかについては、「はい」と答えた人の割合が40.2%となっています。

■あなたは、自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか。(ひとつだけ○)



□年代別集計

単位:%	十分入手できている	十分ではないが、 入手できている	ほとんど入手でき ていない	今のところ情報を 得る必要が無い	不明・無回答
10代(n=12)	—	—	16.7	83.3	—
20代(n=52)	1.9	9.6	34.6	53.8	—
30代(n=60)	3.3	33.3	30.0	33.3	—
40代(n=97)	4.1	25.8	30.9	36.1	3.1
50代(n=106)	3.8	28.3	34.0	32.1	1.9
60代(n=139)	3.6	37.4	26.6	30.9	1.4
70代以上(n=151)	4.0	39.1	19.9	28.5	8.6

- 自分に必要な「福祉サービス」の情報の入手は「十分入手できている」または「十分ではないが、入手できている」と答えた人の割合が34.6%であるのに対し、「ほとんど入手できていない」と答えた人の割合が27.6%となっています。
- 年代別にみると、30代と60代以上では「十分入手できている」または「十分ではないが、入手できている」と答えた人の割合が「ほとんど入手できていない」と答えた人の割合を越えていますが、その一方で、40代以下では「今のところ情報を得る必要が無い」と答えた人の割合が最も高くなっています。

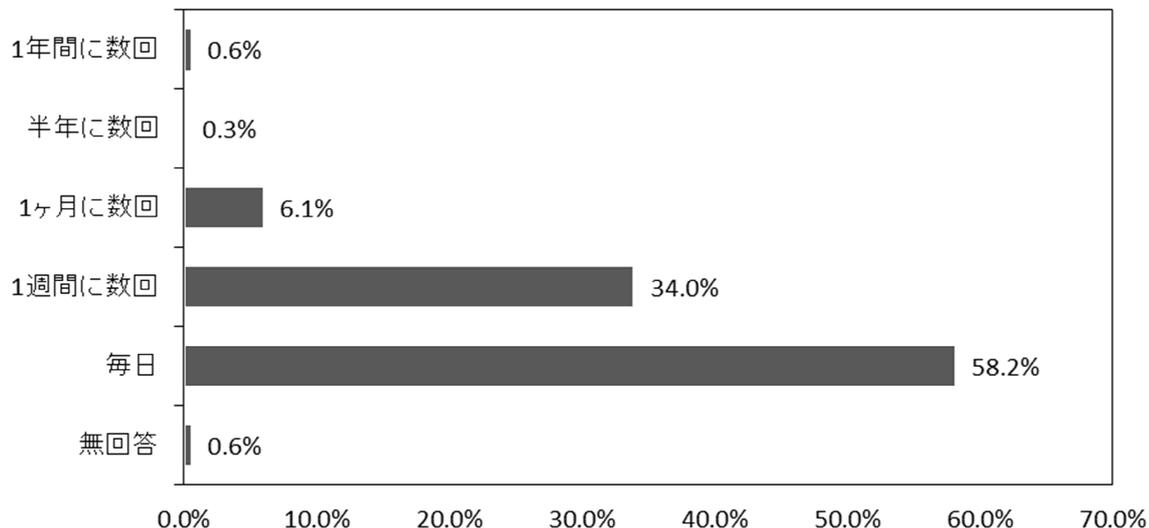
### **アンケート調査から見えてきたこと**

災害時等における情報の共有と連携体制の強化はもちろんのこと、平常時から行政、地域、各団体が連携を密にすることで、そこに暮らす住民の困りごとを丸ごと受け止められる体制づくりが重要です。

また、必要な情報を必要な時に受け取れるような情報の発信・伝達の工夫をすることで誰一人取り残さない体制整備が求められています。

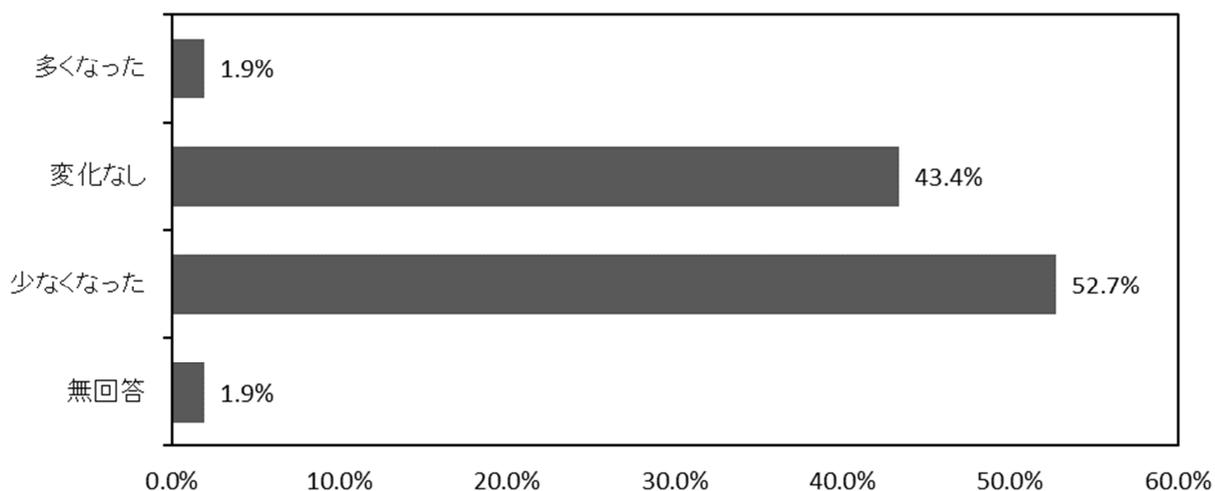
#### (4) コロナ禍による生活様式の変容について

- あなたが外出（散歩や買い物も含む）する頻度はどのくらいですか（ひとつだけ○）  
※コロナ禍ではなく通常時の頻度をお答えください。



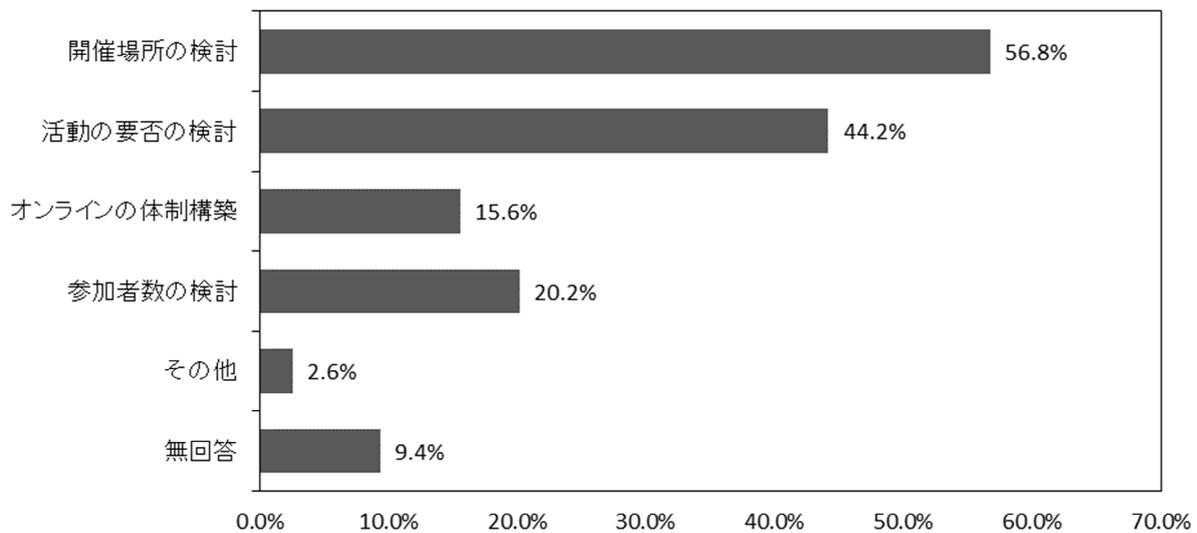
- ・コロナ禍でなく、通常時の外出頻度を伺ったところ、「毎日」が58.2%と最も高く、次いで「1週間に数回」が34.0%、「1ヶ月に数回」が6.1%となっています。

- 新型コロナウイルスにより地域との関わり合いの頻度に変化がありましたか。（ひとつだけ○）



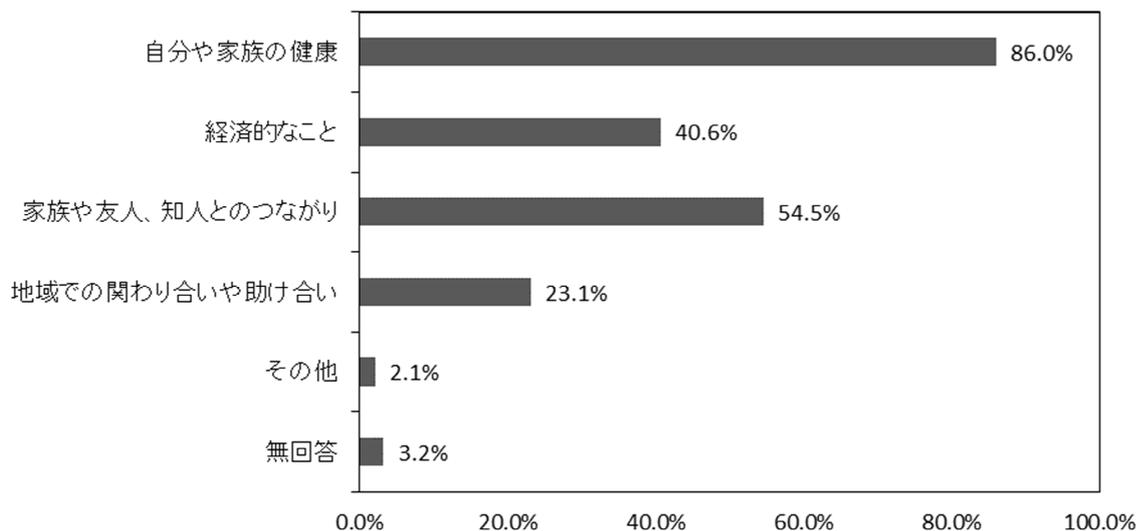
- ・関わり合いの変化についてコロナ禍以前と比べて「少なくなった」と感じている方が52.7%と最も高く、次いで「変化なし」が43.4%となっています。

■今後の地域活動を行う際には、どのような視点で取り組むべきとお考えですか（あてはまるものすべてに○）



・今後どのような視点で取り組むかは「開催場所の検討」が56.8%と最も高く、次いで「活動の要否の検討」が44.2%、「参加者数の検討」が20.2%となっています。

■新型コロナウイルスに伴う日々の生活の中で、あらためて大切と感じたことは何ですか（あてはまるものすべてに○）



・大切に感じたこととしては、「自分や家族の健康」が86.0%と最も高く、次いで「家族や友人、知人とのつながり」が54.5%、「経済的なこと」が40.6%となっています。

・その他の具体的な内容としては、「横のつながりのコミュニケーションは大切だと感じる」「情報共有の必要性」といった意見がありました。

### **アンケート調査から見てきたこと**

コロナ禍により家族・友人・地域との関わりが減ってしまったものの、その重要性を感じている人が多くいることが分かりました。

今後の地域福祉を推進していく上では、状況に左右されない、持続可能な活動を進めるための工夫をしていくことが求められています。

## 5 地域福祉関係団体アンケート調査結果

平成30年度から令和4年度を計画期間とする「第二次大泉町福祉地域計画・大泉町地域福祉活動計画」についての検証および「第三次大泉町地域福祉計画・大泉町地域福祉活動計画」の策定に向けた基礎資料の1つとすることを目的に実施しました。

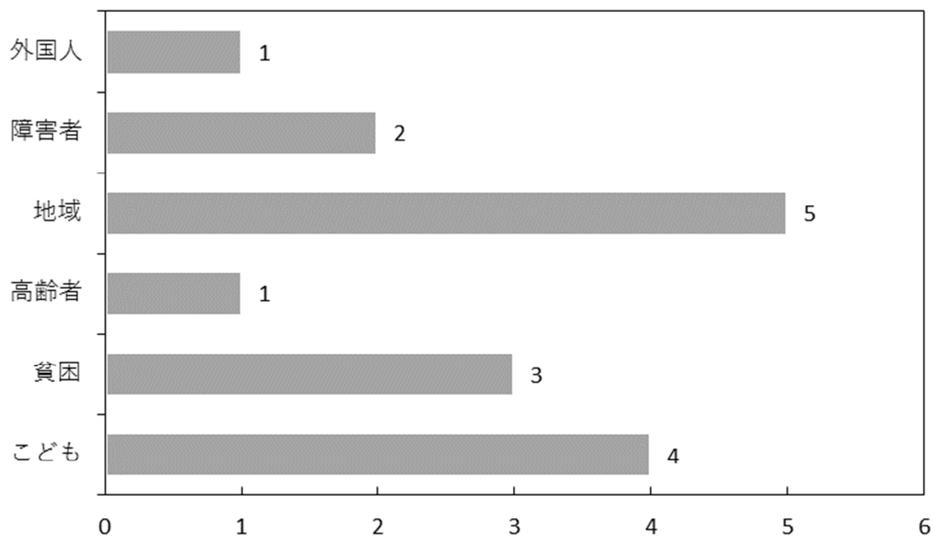
### ■ 関係団体アンケート調査の実施状況

対象	町内の福祉関係 13 団体
調査期間	令和4年5月2日（月）～6月10日（金）
調査方法	調査票を持参し聞き取り調査、または、メールにて調査票の返信回答での調査
対象団体数	13 件
有効回答数	13 件（聞き取り：11 件 メール：2 件）
有効回答率	100.0%

※グラフ中の n=〇〇 という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。

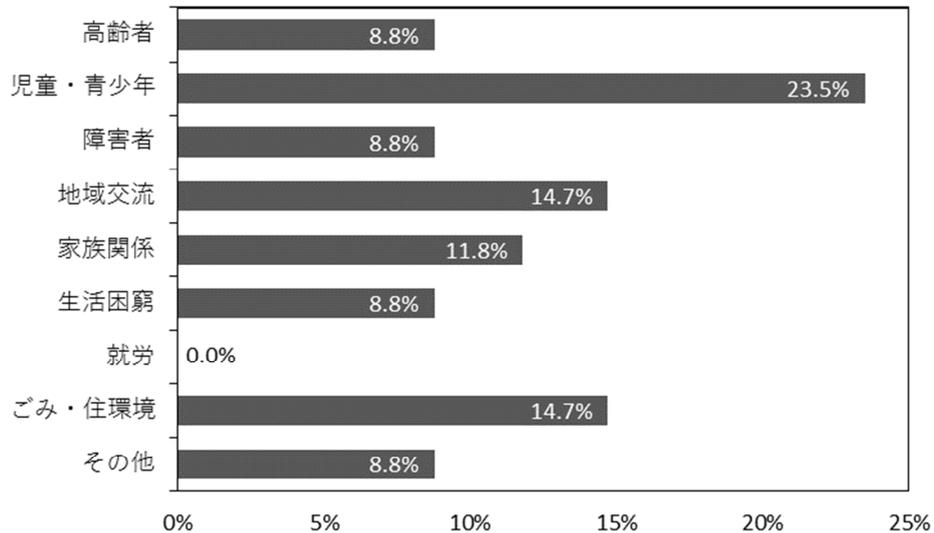
※回答結果の割合（%）はサンプル数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものであるため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

### ■ 貴団体について教えてください。



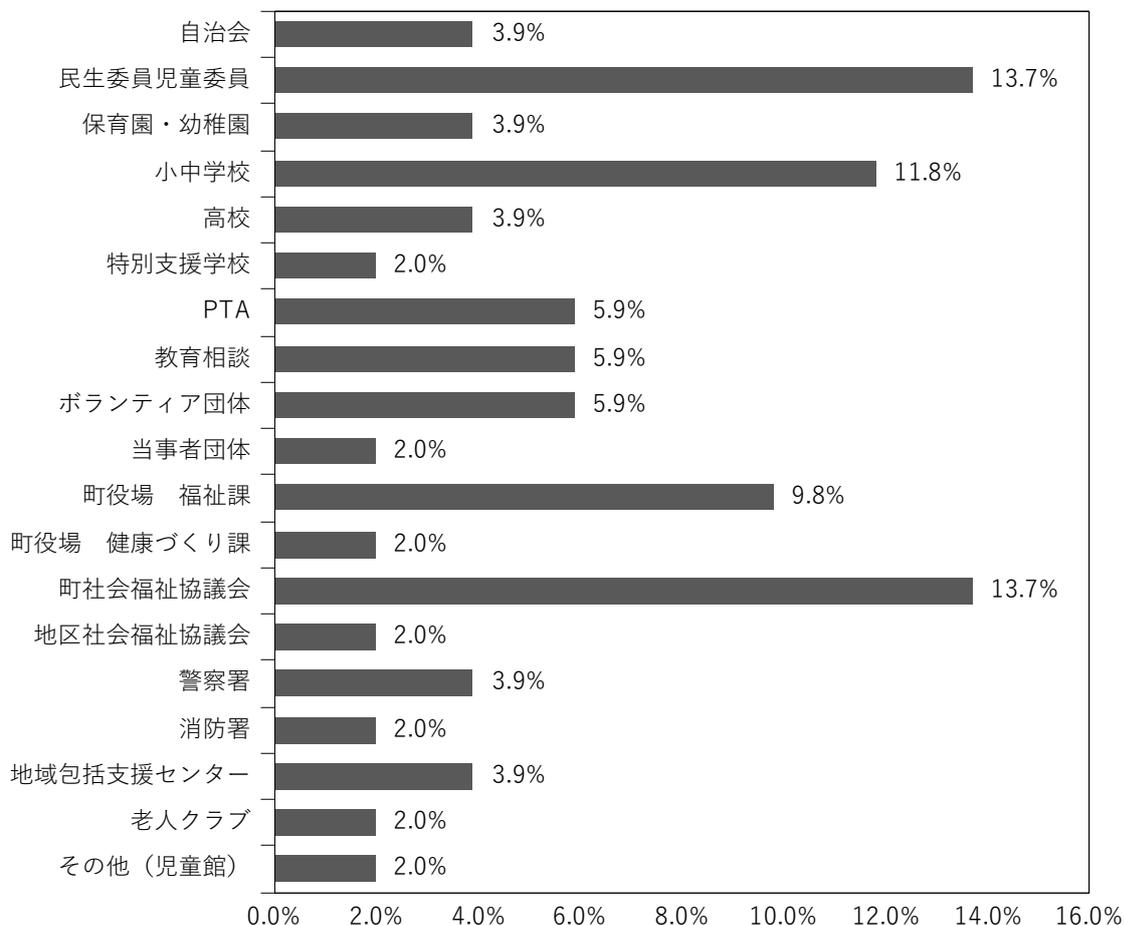
- ・町内の団体を分野別に見てみると「地域」が最も多く、次いで「子ども」「貧困」に携わっている団体が多くなっています。

- 既存の行政サービスでの対応が難しいと感じた問題や地域で気になる相談や問題はどのようなものがありますか。またそれに対する新たな取り組みや活動など、解決に向けた提案がありますか。（複数回答）



- 課題を分野別に見ていくと「児童・青少年」に関する課題が23.5%と最も多く、次いで「地域交流」と「ごみ・住環境」が14.7%となっています。
- 地域で気になる問題として、「全体的にコロナ禍により交流の機会が減っていること」、「それに伴う居場所づくりの必要性を感じている」といった意見が多くありました。また分野を問わず課題に対する複雑さ多様さを実感していて、「自助・互助・共助・公助それぞれの仕組みづくりに工夫の必要性がある」といった意見がありました。
- 自由回答による解決に向けた提案では「新しい人・なり手が増えるような取り組みをしていく」「当事者の居場所づくり、またその支援をしていく」「子どもたちが福祉に触れる機会を増やす取組をしていく」「制度について利用者に分かりやすい工夫をしていく」といった意見がありました。

■今後、特に連携を強化していきたい団体や専門職がありますか。(5 つまで複数回答可)



・「民生委員児童委員」と「町社会福祉協議会」が 13.7%と最も高く、次いで「小中学校」11.8%、「町役場 福祉課」9.8%となっています。

### 福祉団体アンケート調査から見てきたこと

今後、福祉のまちづくりを進めていくうえで当事者の居場所づくりと当事者に携わる人・団体の連携の強化が重要となっており、地域と行政、学校と地域などさまざまな団体や機関の連携をより一層密にしていく必要があります。

さらに、そこに暮らす住民にとって住みやすい地域にするために生活環境の整備も求められています。

## 6 大泉町の地域福祉に関わる課題

本町の地域福祉をめぐる主な課題を整理すると、以下のようにまとめられます。

### ■地域福祉を支える人づくり

全国的に少子高齢化や核家族化による社会的孤立、生活のあり方の多様化、人と人とのつながりの希薄化など地域に暮らす住民の生活課題は、複雑化・多様化しています。これは本町においても例外ではありません。また、町民や福祉団体へのアンケート結果は、地域のつながりづくり・居場所づくりを求める意見があげられており、地域力の希薄化、当事者（とその家族）の孤立化がうかがえます。

地域福祉を進めていくためには、町民の参加・協力が不可欠です。前回計画策定時と同様により一層の住民一人ひとり地域福祉への意識啓発が重要であり、担い手となるボランティアの育成や活動団体への支援など、人材の育成や活用を推進していく必要があります。

### ■活動の輪を広げる地域づくり

人々の生活スタイルや価値観の多様化、感染症への対策などから、人と人とのつながりが希薄化しており、地域生活における日常的な関わり合いやふれあいの機会がより一層減少していることがうかがえます。その一方で町民や福祉団体へのアンケート結果では、世代間や隣近所の交流、地域活動への参加の重要性を強く感じているといった意見があげられています。

今後は誰もが地域の担い手として主体的に関わりあい、支えあいながら、活動できる環境づくりが求められるとともに、状況に左右されない活動の工夫をしていく必要があります。

### ■必要な支援につながる仕組みづくり

困りごとの多様化・複雑化に伴い、福祉サービスを受ける人のニーズも増加・多様化しており、個々の相談体制だけでは対応困難なケースが多くなってきています。

そのため、公的な福祉サービスの量・質的な確保を図り重層的な支援を行っていくとともに、身近なセーフティネットとして地域住民による見守りや支えあいも、支援を必要とする人を支えていくために必要となってきます。

また、町民や福祉団体へのアンケート結果では、前回調査時と同様に情報提供や相談支援に対するニーズが高く、支援を必要とする人が必要な福祉サービスを適切に利用することができるよう、福祉に関する相談機能の強化に努めるとともに、情報提供体制についてもさまざまな発信手段を検討する必要があります。

### ■安全・安心・快適に暮らせる環境づくり

日頃の近所付き合いや避難訓練など、平常時に行う備えやつながりが緊急時には頼りになります。町民アンケートでは、前回調査時と同様に地域の人に手助けできることとして安否確認の声かけや緊急時の手助けなど非常時の内容が特に多くなっている一方で、平時での地域の防災訓練への参加状況は低くなっています。

今後も防災・防犯などに地域全体で取り組みながら、快適な生活環境の整備を進めるなど、地域の中で誰もが安全で安心して暮らせる環境づくりが必要です。